

ご 挨 拶

近畿皮膚科集談会は、昭和2年に開催されて以来、今回102回目を迎えます。第100回近畿皮膚科集談会から本会は日本皮膚科学会大阪地方会と日本皮膚科学会京滋地方会の共同開催となり、今回は第414回大阪地方会・第411回京滋地方会をも兼ねております。このような長い歴史を持つ伝統ある学会の開催を任されましたことを、誠に光栄に思います。

今回は2009年7月5日（日）に、京都駅前のメルパルク京都（旧ぱるるプラザ京都）にて開催することとなりました。

ランチョンセミナーとして、マルホ株式会社にご協賛をいただき、東京慈恵会医科大学病院附属青戸病院の皮膚科学教室教授としてご活躍の本田まり子先生にお越しいただき、「水痘・带状疱疹ウイルス感染症について～ワクチンか、抗ウイルス薬か」というタイトルでご講演を行っていただくことになっています。

また今回もインターネットのホームページより演題募集を行い、発表もパソコン（Windowsのみ）でのプレゼンテーションのみとさせていただきました。よろしく願いいたします。

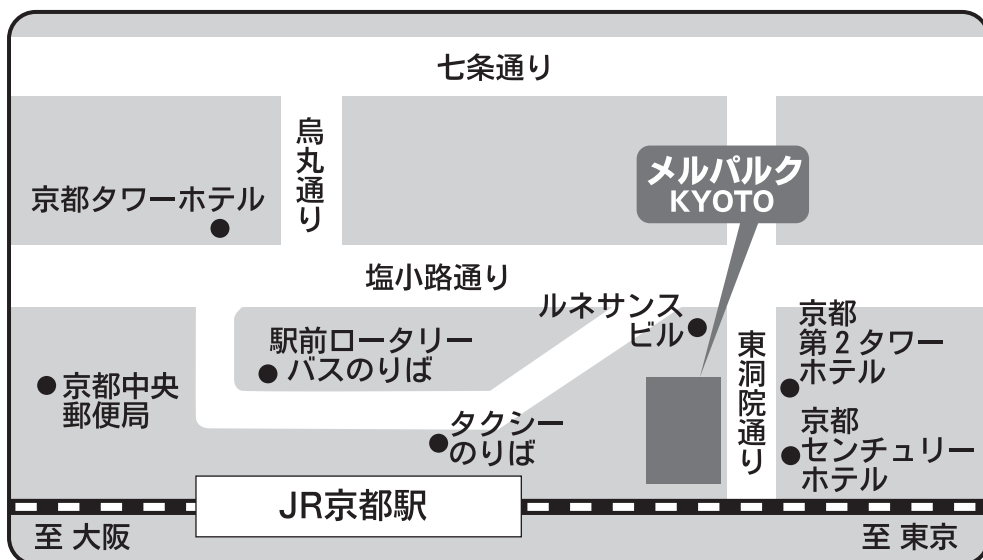
遠方にもかかわらず多くの病院・教室から貴重な症例をいただきましたので、活発なご討論を期待し、皆様のご参加をお待ちしています。

最後になりましたが、開催にあたり、多くの方々のご支援を賜りました。心より深く御礼を申し上げます。

第102回 近畿皮膚科集談会

会頭 古田 未征（草津総合病院）

会 場 ご 案 内



所在地 〒600-8216

京都市下京区東洞院通七条下ル東塩小路町676番13

6階 会議室C

【TEL】 075-352-7444 (代)

【FAX】 075-352-7390

交通機関のご案内

- JR京都駅 烏丸中央改札口より徒歩3分
- 京阪 七条駅より徒歩15分
- 駐車場（有料）はスペースに限りがございますので出来るだけ公共の交通機関をご利用下さい。

お知らせとお願い

●ご参加の先生方へ

1. 受付は、当日午前9時より行います。
2. 登録と参加費：プログラムの表紙裏に添付されている登録用紙に、予めご所属とお名前をご記入の上、受付で登録し、参加費2000円をお納めください。
3. プログラム抄録集は必ずご持参ください。お忘れの方には1000円でお分け致します。（ただし、数量に限りがあります。）
4. 先着順で、希望者には「ランチョンセミナーの昼食券」をお渡しします。
午前のセッション終了後、一旦退出していただき、再入場時に、券と交換で「お弁当」をお渡しいたします。くれぐれも券を紛失しないよう、ご注意ください。
5. 廊下にドリンクサービスを設けております。ご利用ください。
(10時～16時頃)

●ご発表の先生方へ

1. 口演時間は、一般演題は7分以内、スライド供覧は3分以内です。討論時間は一般演題・スライド供覧ともに2分以内です。
2. 発表はWindowsXP Power Point2003, 2007で行います。発表者は、口演30分前までに、ロビーの受付に、USBメモリーとCD-Rの両方をご持参ください。予め試写をして動作をご確認ください。
※詳細はホームページにてご確認ください。
3. 「皮膚の科学」誌に掲載される抄録は、プログラムのものから変更がある方のみ、USBメモリーにて当日ご持参くださるか、後日E-mailにてお送りください。

●質疑応答について

1. 質疑応答は、必ず質疑応答用紙にご記入の上、受付へ提出してください。
その際、座長との質疑応答も記録してください。座長の先生の方もよろしく願いいたします。
2. 発言者は座長の指示に従って、必ず討論用マイクを使い、所属および氏名を述べてから発言してください。
3. 後日ホームページより送信することも可能です。（質疑応答も「皮膚の科学」誌に掲載されます。）

●皮膚科専門医の先生方へ

本会出席に対して6単位の後実績受講票が交付されます。15時までに、受付でお名前をご記入の上、ご請求ください。

近畿集談会の開催要項

2007年（第100回）より近畿皮膚科集談会（以下、集談会）は、日本皮膚科学会大阪地方会（以下、大阪地方会）と日本皮膚科学会京滋地方会（以下、京滋地方会）の共同開催とする。

「近畿皮膚科集談会」の名称を残す。

集談会は、年1回大阪地方会の5月ないし7月の学術集会を兼ねて開催する。
大阪地方会は年間6回そのまま変更はないが、京滋地方会は年5回（1回追加）となる。

集談会の開催意義から、主催施設は大学ではなく、一定規模（原則、医師3名以上）の病院とする。

主催施設は、回数が3で割り切れる回（99回、102回など）は京滋地方会、それ以外は大阪地方会所属の施設から選出する。

主催施設の選出は、担当地方会の運営委員会にて協議され、決定後、他方の地方会に通知される。

運営費用としては、学術集会参加費、地方会からの共催費、企業からの協賛（寄付・広告料）とする。（ただし、企業からの協賛は、全体の50%以下でなくてはならない。）
両地方会の共催負担額は、会員数に応じたものとする。（現在は、大阪：京滋＝3：1）

その他、実情に合わせて、問題点は両地方会の運営委員会で検討・修正する。

第102回近畿皮膚科集談会プログラム

- ・[一般]：一般演題（口演 7 分＋討論 2 分）
- ・[ス]：スライド供覧（口演 3 分＋討論 2 分）

演者の先生および座長の先生ともに、時間厳守でお願いいたします。

9：00～ 受付開始

9：20～ 9：25 【開会の辞】 古田未征（会頭）

9：25～ 9：40 「紅斑・薬疹」

座長：杉江伸夫（公立甲賀病院）

1)[ス]10年以上持続している環状紅斑の 1 例

○松尾智央、岡本祐之（関西医大）、朝田康夫（朝田皮フ科）

2)[一般]パクリタキセルにより誘発されたと考えた強皮症様皮膚硬化の 1 例

○申 祥子、永松麻紀、池田 彩、野口史人、小澤健太郎、田所丈嗣（国立病院大阪医療センター）、山村 順（同・外科）

9：40～10：25 「水疱症・膿疱症」

座長：近藤摂子（洛和会音羽病院）

3)[一般]増殖性天疱瘡の 1 例

○林 雄二郎、船曳正英、米澤理雄（長浜赤十字）

4)[一般]シクロホスファミドパルス療法が奏効した落葉状天疱瘡の 1 例

○森本圭介、長島千佳、岡崎愛子、福本隆也、浅田秀夫（奈良医大）

5)[一般]10年前より汎発性皮膚掻痒症が前駆した前脛骨部類天疱瘡の 1 例

○池田高治、古川福実（和歌山医大）

6)[ス]好酸球性膿疱性毛包炎の 1 例

○櫛原維華、大津詩子、森脇真一（大阪医大）

7)[一般]壊疽性膿皮症の7例

○横見明典、糸井沙織、佐藤彩子、東山真里（日生）

10：25～11：10 「角化症・炎症性角化症」

座長：末廣晃宏（大津市民病院）

8)[一般]エトレチナート内服が奏功したTransient Acantholytic Dermatitisの1例

○前田七瀬、松井佐起、木嶋晶子、吉田直美、西野 洋、片岡葉子（大阪府立呼吸器・アレルギー医療センター）

9)[ス]疣状増殖を呈したダリエ病の1例

○早石祥子、高松紘子、猿喰浩子（東大阪市立総合）

10)[一般]生物学的製剤を使用後に水疱性類天疱瘡を発症した膿疱性乾癬の1例

○飯室詠理子、谷 守、梅垣知子、吉良正浩、片山一朗（大阪大）

11)[一般]掌蹠にも病変を認めた扁平苔癬の2例

○金澤典子、足立厚子、井上友介、松尾正文、佐々木祥人（兵庫県立加古川）
西岡五郎（西岡皮フ科）、加古 覚（加古皮フ科）

12)[一般]コントロールに苦慮した毛孔性紅色秕糠疹の1例

○政次朝子、伊東詩織、荒井利恵、太田深雪、堀口裕治（大阪赤十字）
政次 健（同・糖尿病内分泌内科）

11：10～11：55 「膠原病・血管炎・代謝異常」

座長：足立厚子（兵庫県立加古川病院）

13)[一般]特異な臨床像を呈したParry-Romberg症候群の1例

○鶴田大輔、今西久幹、小林裕美、石井正光（大阪市立大）

14)[一般]卵巣癌を合併した皮膚筋炎の1例

○今井 慎、張 財源、坂元花景、小西啓介（京都市立）
小藺祐喜、荻野嘉夫（同・産婦人科）

15)[一般]壊疽性膿皮症とPropylthiouracil (PTU) によるANCA関連血管炎の合併した
1 例

○中野英司、平林研二、下浦真一、高井利浩、村田洋三、熊野公子（兵庫県
立がんセンター）

16)[一般]特発性陰嚢石灰沈着症の1 例

○笹屋晴代、吉永英司、吉田益喜、大磯直毅、川原 繁、川田 暁（近畿大）

17)[一般]ビオチン欠乏症の双子例

○寺村和也、藤本徳毅、藤井紀和、立花隆夫、田中俊宏（滋賀医大）

11：55～12：15 （ランチョン セミナーの準備および時間調整）

12：15～13：15 【ランチョン セミナー】

座長：古田未征（草津総合病院）

◎「水痘・帯状疱疹ウイルス感染症について
～ワクチンか、抗ウイルス薬か」

本田まりこ（東京慈恵会医科大学附属青戸病院皮膚科学教室教授）

13：15～13：30 （ランチョン セミナーの後片付けおよび時間調整）

13：30～14：15 「肉芽腫・母斑・母斑症・毛髪疾患」

座長：堀口裕治（大阪赤十字病院）

18)[一般]サルコイドーシスの1 例

○藤井弓子、加藤真弓、松村由美、宮地良樹（京都大）

19)[一般]成人のスピッツ母斑を考えた1例

○高山 悟、古田未征（草津総合）、賀集一平（同・病理部）

20)[一般]Transarterial embolization（TAE）を施行したびまん性神経線維腫の1例

○佐々木祥人、井上友介、福本 毅、足立厚子（兵庫県立加古川）
石田 淳（同・放射線科）

21)[一般]遺伝子解析をおこなった色素失調症の1例（続き）

○岸田昌之（市立長浜）、木村忠貴（同・眼科）、堀 友博（同・小児科）
中西 元、田中俊宏（滋賀医大）

22)[一般]先天性三角脱毛症の1例

○高畑千絵、大江秀一、水野可魚、岡本祐之（関西医大）、覚道奈津子（同・形成外科）

14：15～15：00 「ウイルス・一般細菌感染症」

座長：小西啓介（京都市立病院）

23)[一般]带状疱疹の加療中に急性腎不全、アシクロビル脳症を発症した1例

○江川裕美、清水平ちひろ、近藤摂子（洛和会音羽）

24)[一般]イミキモド5%クリーム外用が奏功したBowenoid papulosisの1例

○篠原 綾、山田玉静、涌田あすか、松村由美、十一英子（国立病院京都医療センター）

25)[一般]頭部乳頭状皮膚炎の親子例

○竹内聖二、長野 徹、岡 昌宏、錦織千佳子（神戸大）

26)[一般]Serratia marcescensによる蜂窩織炎と敗血症を生じた1例

○水野麻衣、馬淵恵理子、中井大介、中森利枝、櫻根純子、池上隆太（大阪厚生年金）

27)[一般]2型糖尿病診断の契機となった巨大背部膿瘍の1例

○日野上はるな、横谷英吏子、米田真理、大畑千佳（市立池田）

15：00～15：10

10分間 休憩

15：10～15：30 「皮膚結核・真菌・寄生虫感染症」

座長：米澤理雄（長浜赤十字病院）

28)[ス]肺結核の治療とともに消退した皮下結節の1例

○今西久幹、大霜智子、曾和順子、水野信之、石井正光（大阪市立大）、
竹本恭彦（同・総合診療センター）河本真大、野田 諭（同・腫瘍外科学）、
栩野吉宏（同・呼吸器病態制御内科学）

29)[一般]Microsporum canisによるケルスス禿瘡の小児例

○今井奈穂、米田真理、日野上はるな、横谷英吏子、大畑千佳（市立池田）

30)[ス]旋尾線虫幼虫によるcreeping diseaseの1例

○一角直行、住田奈穂子（神戸掖済会）

15：30～15：55 「良性腫瘍・治療」

座長：大畑千佳（市立池田病院）

31)[ス]Papillary Eccrine Adenomaの1例

○島本紀子、松永裕美、牧浦宗彦、八木洋輔、藤澤章弘、森田和政（天理よ
ろづ相談所）

32)[一般]下腿に生じたApocrine Hidrocystomaの1例

○奥沢康太郎、末廣晃宏（大津市民）、岸本光夫（同・病理科）

33)[一般]眼瞼下垂手術

○中川浩一（富田林）、岸田 大（同・内科）

15：55～16：40 「悪性腫瘍」

座長：東山真里（日生病院）

34)[一般]陰茎に生じたverrucous carcinomaの1例

○藤本徳毅、中西 元、藤井紀和、植西敏浩、田中俊宏（滋賀医大）
牛田 博、岡田裕作（同・泌尿器科）

35)[一般]C型慢性肝炎患者に生じた下腿の巨大熱傷瘢痕癌の1例

○永田尚子、田中かおる、矢島智子、種村 篤、谷 守、片山一郎（大阪大）、澤端章好（同・呼吸器外科）、玉井宣行（同・整形外科）

36)[一般]頭部皮下腫瘤を契機に発見された腎細胞癌の1例

○杉江伸夫、満 真理子（公立甲賀）、瀧本啓太（同・泌尿器科）、田中敏樹（同・脳神経外科）

37)[一般]眼窩内に生じた悪性黒色腫の1例

○小森敏史、奥沢康太郎、小森由美、花田圭司、益田浩司、竹中秀也、加藤 則人（京都府立医大）、笹島浩泰（同・脳外科）、荒木美治、渡辺彰英（同・眼科）、岸本三郎（大阪鉄道）

38)[一般]診断に時間を要した足底無色素性悪性黒色腫の1例

○鵜飼佳子、高橋聡文、山本文平、林 進（彦根市立）、立花隆夫（滋賀医大）、江竜喜史（江竜皮ふ科）

16：40～16：45 【閉会の辞・次期会頭挨拶】 東山真里（日生病院）

本田まりこ

東京慈恵会医科大学附属青戸病院皮膚科学教室教授

【略歴】

昭和48年 3月 東京女子医科大学医学部医学科卒業
 昭和56年 2月 東京慈恵会医科大学皮膚科講師
 平成15年 1月 東京慈恵会医科大学皮膚科助教授
 平成15年 4月 東京慈恵会医科大学附属青戸病院皮膚科診療部長
 平成18年 3月 東京慈恵会医科大学附属青戸病院皮膚科教授
 同年 5月 東京慈恵会医科大学大学院研究科皮膚科教授兼任
 現在に至る

主な所属学会： 日本皮膚科学会代議員
 日本研究皮膚科学会評議員
 日本性感感染症学会常任理事
 性の健康財団理事
 日本化学療法学会評議員

主な研究分野： 皮膚ウイルス感染症

水痘・帯状疱疹ウイルス感染症について ～ワクチンか、抗ウイルス薬か

岡株水痘ワクチンは1974年阪大微研の高橋理明教授が開発され、世界中に水痘ワクチンとして広く使用されている。しかし、近年帯状疱疹の合併症として帯状疱疹後神経痛（PHN）が話題になり、水痘ワクチンが帯状疱疹予防になるだけでなく、帯状疱疹の重症度を軽減させPHNへの移行も減少させることが明らかになった。水痘ワクチン及び抗ヘルペス薬について述べる。